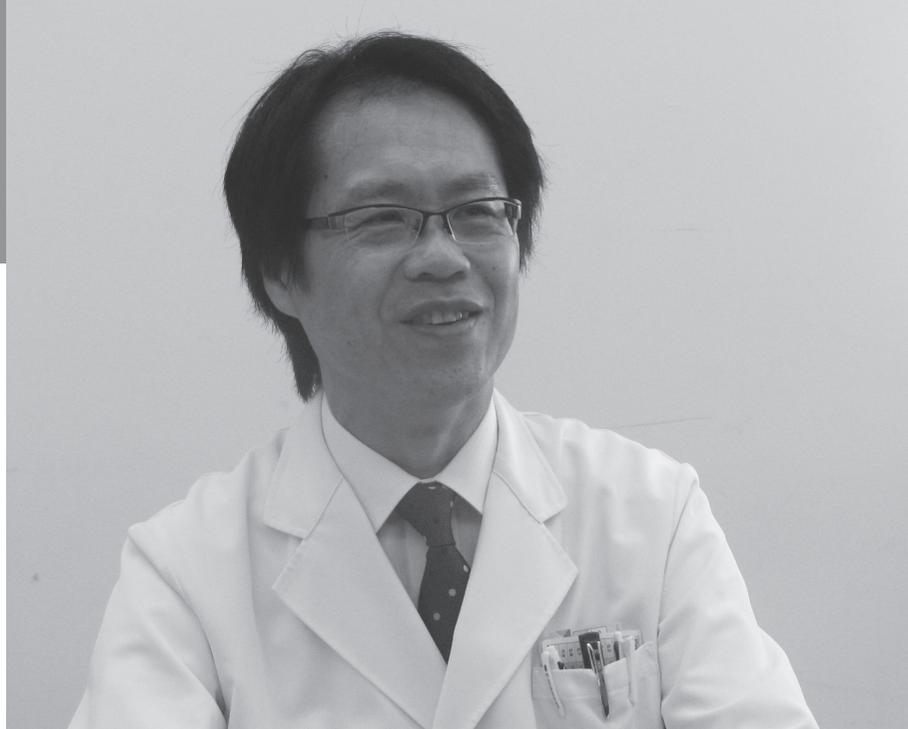


INTERVIEW

甲賀市立信楽中央病院 院長
中島恭二先生



地域を知って、 そこで自分のできることをしよう!

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

地域病院に赴任して、24年

山田隆司(聞き手) 今日は滋賀県甲賀市の信楽中央病院に、院長の中島恭二先生を訪ねました。信楽中央病院は自治医科大学1期生の野崎昭彦先生が赴任されて以来、長きにわたって卒業生が継続して地域を守ってきた病院だと思うのですが、今日はぜひ病院のお話しも伺いたいと思います。

まずは先生の経歴をお話いただけますか。

中島恭二 私は自治医科大学を昭和59年に卒業しました。7期生です。卒業後は大津赤十字病院で4年間外科を中心に研修したあと、近江町(現米原市)の国保診療所に4年間勤務。その後大津日赤に戻って外科を研修し、義務年限修了後、平成5年にここに赴任しました。それからずっとここにいます。

山田 平成5年からという、もう24年になるわけですね。

中島 人生で一番長くいるのが信楽になりました。

山田 ここには外科医として来られたのですか。

中島 ここはもともと総合診療ということでやっていたし、自分は地域医療をやりたくて自治医大に入ったわけで、外科に興味を持ったので、両方を融合させて貢献できたらいいなと思っていました。

山田 当時は1期生の野崎先生が院長だったのですね。

中島 野崎院長や私を含め、医師は4名で、全て自治医大卒業生でした。

山田 前任地の近江町の診療所は1人診療所だったのでよね。

中島 そうですね。

山田 その間は外科の勉強はできなかったわけですよ。

中島 その間は滋賀医大外科の研究室の研究生という形で、腸管神経の免疫組織の研究をしていました。

山田 外科の専門医はいつ取得したのですか。

中島 大津日赤に2回目に戻った時に取りました。

山田 その大津日赤には何年いたのですか。

中島 トータルで5年です。

山田 信楽中央病院に赴任されてからも、ここで手術をしていたのですか。

中島 はい、胃や大腸の手術、腹腔鏡の胆摘術などはしていました。今は麻酔も麻酔専門医がいないとかげられない時代になりましたので、腰椎麻酔の手術くらいしか行っていません。

山田 ここでは先生が思っていたような診療はできましたか。

中島 そうですね。総合診療という専門を設けない外来を特徴的に行ってきましたが、それまで外科中心に診ていたのが、いろいろな内科の病気も勉強しなければならなかったので、最初は結構大変でしたが、面白いと思うようになりました。

山田 町の病院として診療以外に、往診、学校医、産業医などにも関わっているのですよね？

中島 平成26年に強化型の在宅療養支援病院になって訪問診療に力を入れています。町内に特養が1つあるので、そこの担当と、町内の小学校、保育園なども担当しています。



信楽中央病院

山田 信楽町の人口はどれくらいですか。

中島 人口は、私が着任した時には1万4,000人でしたが、今は減って1万2,000人を切ったくらいです。

山田 信楽町内で病床はどのくらいですか。

中島 ここが今は40床。それから神経難病などに重点をおいた国立病院機構紫香楽病院が100床あります。

山田 では、ここの病院が中心になって地域の医療を守っているという感じですね。

中島 野崎先生が開業され、もう1件クリニックがありますので、2件のクリニックと、病院は当院と紫香楽病院です。

山田 救急車は受け入れていますか。

中島 当院は信楽町で唯一の救急指定病院で救急車は年に200件くらい来ます。夜間は放射線技士や薬剤師がいませんので、自分たちでできる検査をして、対応するという感じですね。

時代の要請で役割も変わる

山田 先生が院長になられたのは何年ですか。

中島 平成20年です。

山田 院長になって9年目ですか。院長になってか

らはいかがですか。

中島 高齢者が急増し、在宅医療の重要性が増してきたということが1つと、医療資源が非常に乏